

20 広 建 第 891 号

平成 20 年 10 月 20 日

国土交通省道路局長殿

福島県双葉郡広野町長 山田基星



今後の道路行政についての意見・提案の提出について

このことについて、別紙のとおり提出いたしますのでよろしくお取り計らい願います。

地域住民に対して道路行政全般にわたり理解がされていない部分があるように感ずる。例えば近隣の国道 6 号線において、久ノ浜バイパス工事を計画して実際工事に入っているようであるが、地域住民から見て国道で何か工事をしているようだが、具体的に何をしているのか理解できないし、どんな計画でどこに接続するのかさえもわからない。そしていつ完成するのもわからない。完成後はどうなるのかもわからないままに税の負担だけをしている状況ではないだろうか。これが町であるならば住民に対しての説明会、議会での説明、予算の審議を経て事業を進めなければならないし、昨今は公共事業に対して厳しい見方をする方々が多い状況である。一方的な計画で事業を進めることには、なかなか理解を示していただけないと思う。

道路管理についても地域住民に対しての説明責任はあるだろうし、要望も聞かなければならないだろう。まして交通に支障をきたす工事を年度末に集中させるとなると、税を負担している住民は納得いたしかねるだろう。

このような状況では地域住民から道路行政全般についての理解を得ることは困難であると思われる。是非地域に入って説明会や懇談会を独自に計画すべきではないだろうか。事業費を負担している住民に対して事業内容の説明をして、ご理解ご協力をお願いすることを検討する必要があると思われる。

○現状

当地域は、福島第一・第二原子力発電所さらに広野火力発電所を抱える世界的な電源地帯である。しかし通常でも朝夕の通勤時には、国道 6 号線はもとより主要地方道いわき・浪江線でも交通量が增大する。電源地帯で生活する住民にとっては、防災上の避難道路としての機能は果たせるのか不安である。国策による一大電源地帯である当地域には、幹線道路として位置づけされているのは国道 6 号線だけであるが、片側 1 車線の幹線道路では緊急車両等が通行できるのか疑問である。右折レーンの設置がされていない交差点も多く、緊急時には避難道路としての機能が果たせなくなるのではないだろうか。

○課題

まず国道 6 号線について通常の輸送力機能や地域住民が安全に暮らすための歩道や安全策の設置は当然であるが、電源地帯として防災上の緊急避難道路としての機能を果たさなければならない。近年事業推進を進めている県道広野・小高線整備計画は、電源地域を縦断するものであるが、完成まで 20～30 年かかるといわれている。また、常磐自動車道の完成による高速道ネットワークの完成にはまだ時間を要する見込みである。このような現況では国道 6 号線の機能強化を図ることが地域住民の生活を守るために必要なことである。交差点の整備や登坂車線の整備、さらにバイパスの整備による機能強化を図り、併せて安全施設の整備を推進して民生の安定に寄与すべきである。

当地域は温暖な気候で比較的台風等による被害も少なく、自然環境に恵まれた地域である。地域住民の「住環境」の向上を図ることが行政の役割であると考えている。勿論この中には防災、福祉、教育、産業、自然環境等生活に関連した全てを含めた「住環境」である。これらを実現するにはまず、幹線道路は勿論、生活道路である町道、さらに農林道まで含めて道路の整備は大変重要な要素である。しかし、当地域は中通り地方と比較すると交通網の整備が格段に遅れている。このことは当地域の経済発展に大きな障害になってきたと思われる。地方にも優良企業の進出が取りざたされたが、交通網の整備が遅れている当地域は中通り地方に比べて不利である。地域を守り住民の生活を考えると、特に幹線道路である国道 6 号線は地域の経済を支え、地域住民の生活を守る道路であり大変重要な路線である。

地域経済の発展、地域住民の福祉の向上等施策の全ての基本になるのは道路網の整備であると考えている。ソフト事業が重要視されている昨今、ハード事業の推進には財政的な大きな問題が存在することは充分承知しているが、地方の生活を守るためには道路の整備が最重要であることを理解していただきたい。

○重点事項 地域活力の向上	○代表事例 当町と楢葉町にまたがる J ヴィレッジ周辺の国道 6 号線が、常磐自動車道広野インターの供用開始に合わせて、アスセス道路との交差点を含めた周辺の 4 車線化が図られた。景観等道路環境にも配慮した整備であり、道路空間への配慮がされている。 このように地域の実情にあった道路整備方針の下、地域住民を交えた検討が必要ではないか。	○期待する効果や評価等 交通の流れがスムーズになり快適な道路空間環境を実現をし、J ヴィレッジに因みサッカー関連施設が整備され、総合公園や道の駅等、さらには隣接する工業団地にも活気が見られる。この地を訪れる交流人口は年間 50 万人とも言われるようになった。この交流人口による地域活力をさらに発展させることが重要である。 さらに当地域は海に向けた道路整備をするによる交流人口の増大を図ることが、地域の活性化に結びつくように思える。	○その他
--------------------------	--	--	-------------